

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ユニバーサルスクール		
○保護者評価実施期間	2025年12月20日 ～ 2026年1月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60 (回答者数)	21
○従業者評価実施期間	2025年12月20日 ～ 2026年1月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた専門的な療育を実施している点が強みである。複数の支援プログラムを組み合わせ、個性を重視した支援を継続している。	児童の特性やその日の状態を職員間で共有し、支援方法を柔軟に見直すことを意識している。専門的な療育プログラムを組み合わせながら、成功体験を積み重ねられるよう難易度や関わり方を調整している点が工夫している点である。	支援内容の記録や振り返りをより体系化し、職員間での事例共有を充実させることで、専門性の向上を図る。また、外部研修等を活用しながら支援の幅を広げていく。
2	同一法人内に就労支援事業所を有しており、卒業後の進路を見据えた支援が可能である点が強みである。日頃から情報共有を行っているため、移行時には支援経過や配慮事項を円滑に引き継ぐことができ、継続性のある支援体制を整えている。	法人内事業所と日常的に情報共有を行い、移行時に円滑な引き継ぎができるよう支援経過の整理を意識している。また、将来を見据えた目標設定を行い、段階的な支援につなげている。	移行支援の手順や情報共有様式を整理し、法人内外を問わず円滑な引き継ぎが行える体制を強化する。また、早期から進路を見据えた段階的支援を充実させていく。
3	日々の連絡や面談、送迎時のやり取り等を通して、保護者との丁寧な情報共有を行い、信頼関係の構築に努めている点が強みである。児童の様子や成長、課題について家庭と共通理解を持ちながら支援を進めることで、継続性のある支援体制を整えている。	日々の丁寧な情報共有を心がけ、家庭での様子を支援に反映させている。また、面談や研修会等を通して相談しやすい環境づくりに努めている。	面談や情報共有の機会を計画的に設け、継続的に相談できる体制を強化する。また、進路情報等の提供方法を工夫し、家庭との連携をさらに深めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士やきょうだい同士の交流の機会が定期的に確保できていない点が弱みである。研修会等は実施しているが、不定期開催となっている。	日々の支援を優先する中で、交流機会を計画的に企画・運営する体制が十分に整っていないことが要因である。また、保護者の多様な生活状況により日程調整が難しいことも一因となっている。	保護者のニーズを把握し、無理のない形で交流機会を計画的に設定していくことが必要である。開催方法や規模を工夫し、継続的な実施につなげていく。
2	第三者による外部評価や専門家からの定期的な助言体制が整っているとはいえず、客観的な視点を継続的に取り入れる仕組みが十分ではない。	支援業務を優先する運営体制の中で、外部評価や専門家からの助言を継続的に受ける仕組みづくりが十分に進んでいないことが要因である。	外部専門家からの助言機会や研修への参加を計画的に取り入れ、客観的な視点を継続的に反映できる体制を整備していくことが必要である。
3	日々の支援業務を優先していることから、新たな取り組みや研修・交流機会の拡充に十分な時間を確保することが課題となっている。	日々の支援業務を優先する運営体制の中で、研修や新規取り組みを計画的に進めるための時間確保が難しいことが要因である。	事業所内研修は継続的に実施しているが、外部研修や交流機会の拡充に向けた時間確保が課題である。今後は年間計画への位置付けや業務効率化を図り、段階的に充実させていく。